

平成 26 年 2 月 13 日 00157 号

編集者:佐藤 寿春

北見市幸町 8 丁目 4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

satou.tosiharu@navy.plala.or.jp

# 北見武道通信

## ニュースレター【柔道情報】

### 平成 25 年度北見市柔道協会選手強化講習会が北見市武道館で開催される！

平成26年2月8日(土)9日(日)の2日間にわたり「北見市武道館」において平成25年度北見市柔道協会選手強化講習会が開催されました。武道館の会場には小学生から社会人までの柔道選手延べ約 300 名が集まりました。この講習会は、北見市体育協会の補助と北海道警察の協力のもと実現しました。講師には北海道警察から河合秀幸氏(講道館五段)遠藤剛氏(講道館四段)本保孝人氏(講道館四段)荒尾久詳氏(三段)の4名が派遣されました。いずれも全日本で活躍した選手ばかり。受講する地元の選手は真剣に耳を傾け、実技に汗を流していました。



### 【事務局情報】平成26年度定期評議員会と新年交礼会が行われました。

2月10日(月)午後6時玉寿司本店において平成26年度北見市武道振興協議会(武藤弘司会長)の定期評議員会が行われました。今年協議会ができて20年を迎える年となり、創立20周年記念事業を行う事になりました。主な内容は記念式典や記念誌作成、第19回総合武道祭の開催など盛りだくさんの内容になっています。また、評議員会終了後には、平成26年度の新年交礼会が同会場で行われました。



## 連載 中国「老子」の思想 四十一章 「大器は晩成す」

正真正銘の士(立派な人物)は、「道」を聞けば、熱心に行う。どうか士といえる程度の人は、「道」を聞いても、半信半疑である。士とは名ばかりの連中は、「道」を聞くと、腹を抱えて笑いだす。だが、こんな連中の物笑いにならないようでは、「道」とはいえない。

古人もいったではないか。

「真に明るい道は、暗く見え、真に前進している道は、後退しているように見え、真に平坦な道は、けわしく見える。高い徳は、低く見え、真の白さは、汚れて見え、広大な徳は、欠けているように見え、堅固な徳は、その場限りに見え、変わらぬ徳は、うつろいやすく見える。またとなく大きい四角は、角が見えず、またとなく大きい器は、完全な器とは見えず\*、またとなく大きい音は、耳に聞こえず、またとなく大きい形は、判別できない」

「道」は、われわれの感覚を超えた存在である。ただ、万物を生々発展させる根元として、その存在を疑うことはできないのである。

\*〈またとなく大きい器は、完全な器とは見えず〉いわゆる「大器晩成」なる語の出典はこれであるが、現在では意味を取り違えて用いられている。成語には、えてしてこのような例が多い。原文:上士聞道、勤而行之。中士聞道、若存若亡。下士聞道、大笑之。不笑不足以爲道。故建言有之。明道若昧、進道若退、夷道若類。上德若谷、大白若辱、廣德若不足。建德若偷、質真若渝。大方無隅。大器晩成。大音希聲。大象無形。道隱無名。夫唯道、善貸且成。 四十二章に続く